

日本画研究会

はんぽの会日本画展

絵の持つ力や役目を信じて
仲間と共に半歩でも前へ…

同時開催

院展同人

伊藤 髭耳 小品展

常設展

平福穂庵・百穂展（第一展示室）

2016年6月8日(水)～7月24日(日)

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで) 会期中無休
6月8日 9:00よりオープニング 10:00よりギャラリートーク

仙北市立 角館町平福 記念美術館

〒014-0334 秋田県仙北市角館町表町上丁 4-4 TEL 0187-54-3888

● はんぽの会と日本画展について ●

平成24年(2012年)、春の院展秋田展に院展同人の伊藤髟耳先生が来秋された折に有志の働きかけによって先生を囲んでの日本画研究会が開かれました。これが始まりで以降毎年3回から4回、先生の来秋にあわせて研究会が開かれ、平成25年(2013年)には会の名前も「はんぽの会」と決まりました。伊藤先生を中心として集まった仲間同士、長く日本画を描き続けよう、そして半歩でも前に進もうという気持ちがこめられた名前です。

このたびの「はんぽの会日本画展」は、会として初めての作品展となります。4年間14回に渡る研究会の成果を展示いたします。伊藤髟耳先生の小品展と併せてご覧ください。

—— 小品展によせて ——

伊藤 髟耳

新薬師寺の立像で有名な十二神将は、薬師如来の世界を守る12人の大将です。また12の方角も守っていることから、干支(十二支)の守護神としても信仰されています。

1995年にニューヨーク・ソーホーでの個展で十二支の作品を発表したことをきっかけに、「十二神将」を描き始めました。90cm×180cmの作品25点がまとまりニューヨークで展示しようとした矢先の2001年、あの9.11事件が起きて展示はかないませんでした。その後2004年に酒田の本間美術館、2011年に奈良の万葉文化館と国内で発表することとなりましたが、これを最後にもう十二神将を描く事はないと思っていたのです。しかし2013年に画商の依頼があり8号サイズの「十二神将」を描く機会に恵まれました。

モチーフを見ながら直接キャンパスに描いて行く油絵とは違い、日本画は写生(スケッチ)、小下図(小さな構図案)、大下図(大きな下絵)、本画(作品)と段取りを追って描いていきます。この過程でモチーフからさまざまなことを教えてもらいながら線や色を整理していくのが日本画だと思っています。

このたびの小品展では、8号サイズの「十二神将」の本画のほか、小下図、大下図も展示いたします。一枚の本画ができる前に画家はどんなことを考え何を試しているのか…興味を持って見て頂けると幸いです。

出品者

伊藤 髟耳	小笠原 光
加藤 香代子	小林 司
小西 由紀子	斎藤 由紀子
柴田 則子	高橋 節
高橋 義子	土屋 薫
富樫 彌子	細川 雪子
細川 良治	山田 美知男



仙北市立 **角館町平福記念美術館**
〒014-0334 秋田県仙北市角館町表町上丁4-4
TEL 0187-54-3888